

紙や段ボールを使った
商品展開で感動を与える事業内容 段ボールを軸に
次代を見据えた商品を開発

昭和28年、段ボールシートを段ボール箱にする製函メーカーとして創業。昭和36年に法人化を果たす。その後、平成3年に次期社長となる野々宮守孝氏が書類を保管する「帳票保存箱」の製造を発売。約35年前、ダイレクトメールを発信し電話や郵便で注文を受ける通信販売の手法を取り入れヒット商品となる。段ボールパッケージの受注加工に加え、事業所向け通販事業として自社の商品群を拡充し取引先を広げていった。

平成14年には野々宮英一郎氏が社長に就任。入社時に経験した業績不振状況から、付加価値を追求した新事業を模索。そこで、国内外の市場ニーズや動向を調査し紙や段ボールによるディスプレイ資材の設計、製作事業を手がけ始める。現状ではSP（セールスプロモーション）事業として実績を重ね、売上高11億5,000万円（平成28年6月期）の60%強を占めるメイン事業に成長している。

補助事業 個人向け商品の開発で
通販事業に新たな展開

昨今、ディスプレイツールは木やアクリル、鉄などから、紙や段ボールへ材質を移行する傾向が強い。同社SP事業では紙ベースの多様なディスプレイ製品を手がけ、設計から製作まで幅広く顧客ニーズに応えている。一方、通販事業の新たな方向として個人向け製品の開発に力を入れる。その初商品が3年前に発表した子供用玩具「段ボールキッチン」。ネットで紹介され長年のヒット商品となった。商品構成の拡充により5,000万円程度だった通販事業の売り上げも28年6月期には1億円台を確保。販売はインターネット中心の直販にこだわる。「一品一様で量を追わずニッチ市場でトップを狙う」と野々宮社長は販売姿勢を語る。

事業申請では一連の成長分野をターゲットに、商品開発のスピード向上と商品点数の拡大を狙う。そこでカッティングマシンの増設に加え、微細加工を可能にするレーザーカッティングマシン、特殊インクジェットプリンターの導入を提案した。



段ボールを使った家具製品（椅子）



帳票保存箱



段ボールを使った子供用玩具

具体的成果 作業効率の向上と
新たな商品開発に寄与

特殊インクジェットプリンターは精度の良い表面印刷など、商品開発で高い効果を期待した。従来のオフセット印刷と同程度の品質で印刷できるかを検証するため、過去に同社が手がけた印刷サンプルをインクジェットで試作。結果、良好な品質で商業用途に耐え得る感触を得た。レーザーカッティングマシンは細かい曲線カットや厚みのある素材に対して、表面のみの掘削加工など美粧性がありデザイン性の高い加工を可能にする。子供用まごど玩具やアクリル板を切りだしたキーホルダーなどの試作品を製作。既存事業への展開を含め個人向け小物雑貨など、新規性の高い商品開発に寄与するものと考えられる。

サンプルカッティングマシンについては、生産力増強により従来の機械設備と比較し30—50%程度、作業スピードの高速化を実現。製品開発期間の短縮とともにオペレーターの負担軽減に貢献した。加工性向上により商品アイテムも従来の子供用玩具のキッチンをはじめハウスや家電製品、棚や机などラインアップの拡充を果たした。今後は導入機器を応用、開発工程でいっそうの効率化が期待できる。また蓄積された設計力を生かして紙や段ボール以外の材料展開や、対象を大人向けへ広げた商品開発に挑む。

今後の戦略 海外進出で
新たな事業展開を模索

子供用玩具や知育玩具などの分野では、少子高齢化による需要の減少が予想される。ただ、逆に子供一人当たりに親や祖父母が費やす金額は増加するとも考えられている。こうした分野では独創性とデザイン性に優れ、知育に役立つ玩具の開発がヒットの必須条件になる。それらの商品を継続的かついち早く開発していくために、今回導入した設備を活用することは極めて有用と考えられる。既存商品ではサンプルカッティングマシンを使用し、試作サンプルをより早く効率的に開発することで提案力の向上に努める。またアクリルや木、ガラス、フェルト、ゴム、革、金属などの新たな素材の加工が可能となり、個人向け商品開発に新たな展開が想定されている。

さらに、今後は成長著しい海外での事業を模索する。東南アジアを中心に市場性を調査した結果、フィリピンに魅力と成長性を感じオンデマンド印刷の事業を立ち上げた。将来的にはディスプレイやパッケージなど国内での事業経験を生かし、すそ野を広げる計画。野々宮社長は「国内だけでは視点が限られる。海外から見ると日本や、海外から海外を見る機会を得て視野が広がった」とグローバル展開に意欲を示す。

豊栄産業 株式会社

代表取締役 野々宮 英一郎

〒573-0136 大阪府枚方市春日西町2-27-28

TEL. 072-858-2651

FAX. 072-858-7803

資本金／20,000千円

従業員／35名



ワクワク感動できるサービスを創造

代表取締役 野々宮 英一郎

「感動創造」を社是とし、社員一同「毎日が勉強」を実践。お客様と社員とパートナーカンパニーが三位一体となってワクワク感動できるサービスの創造を目指しています。


<http://www.howay.com/>

取材を終えて

次代を見据え、
新たな事業展開にまい進

段ボールでパッケージを作るだけでなく、自社ブランドでの商品開発や設計力を生かしたディスプレイの設計製造など、常に業界に先駆け特徴的な事業を展開し一目置かれる存在。現状の業容や業績に満足することなく、常に次代を見据え顧客目線に立った事業展開にまい進する。少数精鋭の組織を目指し、無理な設備増強や要員拡大は望まない。今後は海外で“メイドインジャパン”の技術力を発揮していくことだろう。